

小児整形外科

1. スタッフ（平成23年4月1日現在）

科 長（学内教授）：吉川 一郎
医 員（助 教）：渡邊 英明
（大学院生）：雨宮 昌栄

2. 診療科の特徴

（診療科内容）

小児の脊椎、骨、関節、筋その他の運動器に生じる疾患や外傷に対する診療を行なっている。

以下に主な対象疾患を挙げる。

脊椎および脊髄疾患（腰痛症、椎間板ヘルニア、脊椎分離症すべり症、脊柱側弯症、後弯症、先天性側弯症、二分脊椎など）、斜頸、Sprengel変形、多合指症、野球肘、股関節疾患（先天性股関節脱臼、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など）、膝関節疾患（Blount病を含むO脚・X脚変形、離断性骨軟骨炎、円板状半月など）、足部疾患（先天性内反足、麻痺性足部変形など）、多発性関節拘縮症、骨系統疾患、骨代謝疾患（くる病など）、骨関節感染症などである。

（特色）

1）脊椎疾患

小児整形外科では、小児脊柱変形（側弯症、後弯症）の治療に最も力を入れている。22年は、脊柱変形手術例15例（思春期側弯症9件、成人側弯症2件、先天性側弯症2件、軟骨無形成症における胸腰椎部後弯変形2件）だった。

また幼児期側弯（Early onset scoliosis）に対しても積極的に全身麻酔下にギプス矯正治療をおこない、その後の装具治療につなげている。積極的にgrowing rodなどの高度な手術治療も取り入れていく計画ではある。しかし、保存療法でも治癒する症例があることより保存療法にも全力で取り組んでいる。

2）足部疾患、股関節疾患

吉川、渡邊は、これまでと同じく先天性内反足、麻痺性足部変形の診断と治療も専門の一つとしており、その診断と治療を積極的におこなっている。幼少児の軟部組織解離術はもとより思春期や成人の麻痺性足部変形に3関節固定術も積極的に行っている。

雨宮は先天性股関節脱臼とペルテス病を主とした股関節疾患の診断と治療を専門としておりペルテス病病態の解明を目的とした基礎研究に取り組んでいるために外来診療は平成20年4月より休診している。

また、毎週木曜日夕方、一週間ごとに放射線科のスタッフと外来および入院症例のケースカンファランスを

行っている。

（外来担当医師）

吉川 一郎（学内教授）：脊椎外科、小児足部疾患、小児整形全般
渡邊 英明（助 教）：脊椎外科、小児足部疾患、小児整形全般

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1）新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	298人
再来患者数	2,800人
紹介率	70.9%

2）手術件数

平成22年小児整形外科手術（総数 101件）
（内訳）

脊柱変形手術例15例（思春期側弯症9件、成人側弯症2件、先天性後側弯症2件、軟骨無形成症における胸腰椎部後弯変形2件）	
内反足（先天性および麻痺性）手術	25件
側弯症全身麻酔下矯正ギプス巻き	15件
多指（趾）症・合指（趾）症	4件
骨折手術	9件
ペルテス病内反骨切り術	3件
先天性股関節脱臼（観血的整復術）	6件
大腿骨頭すべり症	1件
脚長調整術（stapling）	1件
骨内異物除去術	5件
化膿性関節炎・骨髄炎	1件
脚延長術	3件
ばね指	2件
大腿骨骨切り術	1件
骨腫瘍（骨軟骨種）	3件
筋性斜頸	2件
尖足手術	4件
頸椎椎弓形成術	1件
人工股関節手術	1件
股関節筋解離術	2件
計	101件

3）化学療法症例 なし

4）放射線療法例 なし

4. 事業計画・来年の目標等

子ども医療センターで、月曜日午前（新患と院内紹介のみ）、午後と木曜日午前中に外来診療を行っている。また、月1回の二分脊椎外来も子ども医療センター各科と連携して行っている。紹介外来患者も少しずつ増加してきている。今年も、難度の高い脊柱側弯手術を安全かつより良い変形矯正が得られるようにおこなって高度医療機関としての役目を果たすこととこれまで同様に先天性内反足や麻痺性足部疾患など専門性の高い疾患の治療を継続していくことを目標に考えている。